

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

栃木県那須郡那須町

○学校名

那須町立高久中学校

○学校のURL

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】各学年 1 学級 【特別支援学級】 1 学級 【合計】 4 学級

○児童生徒数

【全児童数】 64 人（平成 24 年 11 月 20 日現在）
（内訳：1 年生 20 人、2 年生 26 人、3 年生 18 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「進んで学ぶ生徒」「心豊かな生徒」「健康でたくましい生徒」

【人権教育に関する目標】

「学び合いを通して人権感覚を育む教育活動」

－自尊感情を伸ばすコミュニケーション能力の育成－

○人権教育にかかる取組の全体概要

- すべての教育活動で、コミュニケーション能力を育て、自尊感情を伸ばすための活動を工夫し、実践する。
学び合い活動を行うことを中心に、教科や学校生活、行事等の中でコミュニケーション能力を育て自尊感情を伸ばしていく
- 人権が尊重された校内環境作りに努める。
教室や廊下の掲示物を工夫し、人権意識を高める。
- 小学校と連携し、小・中のつながりを重視した研究を行う。
小学校との共同研究とし、学び合いを通して自尊感情を育てていく。
- 各教科等において直接的指導と間接的指導を意識した指導の充実を図る。
各教科の指導事項を確認し、人権に関する部分を確実に押さえるようにする。
- 保護者への啓発を行う。
人権に関わる啓発活動を保護者に対して行うように計画する。

3. 特色ある実践事例の内容

(1) 取組のねらい、目的

本校では「進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 健康でたくましい生徒」の三つを教育目標として掲げている。

上記教育目標を達成するための取組として、学び合いの活動の充実は「進んで学ぶ」態度を育成し、コミュニケーション能力を身に付け自尊感情が高い生徒は「心豊かな生徒」であると考ええる。

また、学校経営方針の一つである「教師・生徒、生徒相互の望ましい人間関係や家庭・地域社会・小中連携を基盤に、積極的な生徒指導の充実に努める」のための具体的な方策として、「学び合いを通して生徒の人権感覚を育む教育活動」を研究主題に取り組むことは意義あることと考えた。

(2) 取組を始めたきっかけ

本校の立地は、農村地域と住宅地域が混在する。那須観光のスタート地点であり、旧黒磯市にも隣接しているが、比較的のどかな風土である。

最も大きな特徴として、小学校と同一敷地内に学校があり、小学校から9年間、単学級であるため、クラス替えがない。そのため、9年間同じ顔ぶれで過ごす。

この状況により、以下のような弊害が見られる。

- ・人間関係がマンネリ化し、コミュニケーションを取らなくてもよいという感覚になる。
- ・人間関係に変化がないため、周囲の者に対しての評価や判断が固定化し、偏見になる傾向がある。
- ・自分に対する評価や見方が固定してしまっているため、「どうせ自分なんて」という意識が見られる。
- ・積極的に自己を向上させる意識が薄く、自分より劣る者につらくあたることで満足を得ようとする者がいる。
- ・固定された人間関係にあるため、新しく入ってくる人物と適切な関係を築くことが苦手で、それが、時に仲間はずれのような状態になることがある。

このような状況は、人権上の問題につながってしまう。

上記にあるような状況の原因を考察すると以下の2点が考えられた。

①自尊感情が低い

本研究では、特に自尊感情に着目し、その現状を確認した。確認の方法は東京都教職員研修センターが慶応義塾大学と共同で研究開発した自尊感情測定シートによる。測定により、全学年において東京都の平均より低いことが分かった。

②コミュニケーション能力が低い

「話さなくても分かる」「どうせ自分なんて」「あの人は〇〇だ」という現状が、積極的なコミュニケーションの必要性をなくし、グループ学習においても会話のない状況を生んでいた。そのため、コミュニケーション能力が身につけていない状況が推測される。

以上のことから、本校における人権教育の主題を「学び合いを通して生徒の人権感覚を育む教育活動－自尊感情を伸ばすコミュニケーション能力の育成－」と定めた。

(3) 取組の内容

① 「学び合い」活動

○ねらい

「学び合い」の中で行われる話合いや自分の考えを述べるなどの活動により、生徒のコミュニケーション能力を育てる。また、学び合い活動を工夫することで、自尊感情を伸ばす手立てとする。

○実践の方法

- ・グループ活動の活用←3～4人グループの構成

授業の中で、グループ活動を多く取り入れる工夫をすることで、学び合いの場面をつくる。

随時グループをつくるため、グループ構成に配慮し、席替えは担任が「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」の結果などを十分に考慮して決める。

- ・よさを認め合う活動の工夫

授業の中で、よいと感じた他の意見や、自分の助けになった意見を確認する。その際、自己評価で確認するなどの工夫も行う。

- ・自己を表現させる場面の工夫

発表の場を多くし、自己表現への抵抗感を少なくする。

② ジャンケン禁止

○ねらい

ア コミュニケーション能力の育成の観点から

- ・話し合うこと＝相手を説得する＝コミュニケーション
- ・そう思う理由を述べさせることから→正しく自分を伝え、正しく相手を理解する。
- ・歩み寄ること＝妥協点を探る＝コミュニケーションでは大切なこと

※公平さ、公正さ、妥当性、公共性の意識付け

イ 自尊感情の観点から

「良さの見取り」「他尊感情」「承認」があることを期待する

○実践の方法

ア ジャンケンを禁止し、決定は話合いで行わせる。

イ 教師の働き掛け

- ・なるべく多く、意図的に、話合いで何かを決定する場面をつくる。
- ・最終的に多数決になっても仕方がないが、その場合でも意見と理由を述べさせてからにする。
- ・意見を言えずに、自分の希望とは違った役回りが回ってきても、ある程度は我慢させ、自分をしっかり表現することの必要性を感じさせる。
- ・結論が出なかったり、時間がなかったりする場合は、教師が決定する。

ただし、その場合そう決めた理由と、妥協点を伝える。

③ 校内環境における工夫

○ねらい

人権意識を高め、コミュニケーション力を養うために校内環境を工夫する。

○実践の方法

ア 人権意識高揚「気付きの窓」掲示

人権に対する意識を高める言葉を入れた掲示物を作成し、不定期に変えることで注意させるようにする。

イ 「人権コーナー」の設置

人権に関する掲示物をまとめて掲示することで、人権に対する意識を高める。

ウ 人権標語「心があっ高久なる言葉」の掲示

生徒が書いた人権に関わる標語を掲示する。月替わりで、担任が指名した生徒が書くが、担任はなぜこの月にその生徒を指名したのか、理由をもって指名する。

エ 談話スペース「暖話コーナー」の設置

生徒昇降口前のホールに生徒たちが集まって談話ができるコミュニティコーナーを設置し休憩時間に集まれる場とする。

④ 承認を行うための工夫

○ねらい

生徒にとって教師からの言葉掛けは、大きな意味がある。そこで、教師側から承認と感謝の気持ちを伝えるための意識付けを行う。

○実践の方法

「3よう伝気」（感謝しよう、承認しよう、ほめよう）と書かれた掲示物を作成。教師が「ありがとう」「なるほど」「わかっているよ」「すばらしいね」などの言葉かけをすることで、生徒に気持ちを伝えるように意識付ける。

⑤ 小学校との連携（共同研究）

○ねらい

小学校において、中学校につながる研究や実践を行うことで、生徒の自尊感情やコミュニケーション能力のよりよい状況を期待する。

○実践の方法

小学校に以下の取組を依頼し、共同研究として行ってもらう部分を確認した。

- ・生徒の発達の段階に応じた学び合い
- ・自尊感情調査……9年間の変化
- ・授業におけるグループ活動の取り入れ……中学校へのつながり
- ・生活における席替えの配慮……コミュニケーション能力を育てるため

⑥ 保護者への啓発「親子人権講話」

○ねらい

親子で身近な人権問題について考える機会をもつことで、人権意識を高め

る。

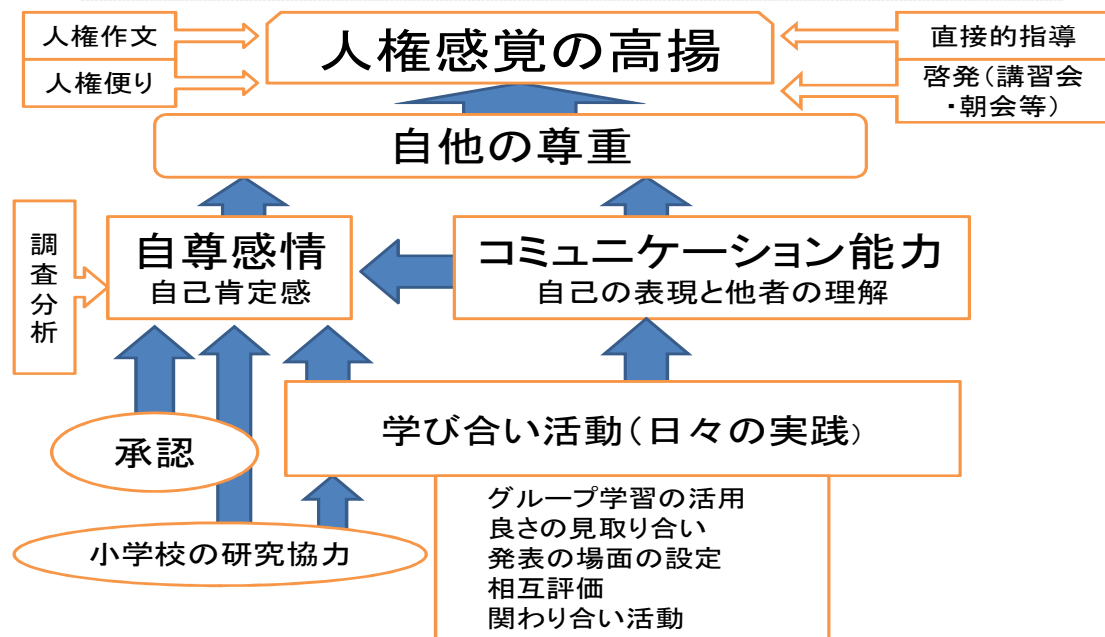
○実践の方法

那須教育事務所ふれあい学習課の方を講師にした人権のワークショップ

- ・ロールプレイングやDVDの視聴を通して、身近な人権について考えていく。
- ・保護者を交えて、全学年で実施する。

(3) 取組や実施体制

学び合いを通して生徒の人権感覚を育む教育活動



(4) 取組を実現させるに当たって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫

○課題

小学校との連携は意義のあるものだが、発達の段階が異なるため、十分な配慮と検討が必要である。

○工夫

合同による現職教育，研究授業，「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」の結果を分析する講座等を行うことで，共通の理解を基に取り組んだ。

4. 実践事例の実績、実施による効果

(1) 取組の実績

○「人権意識チェック」の数値向上

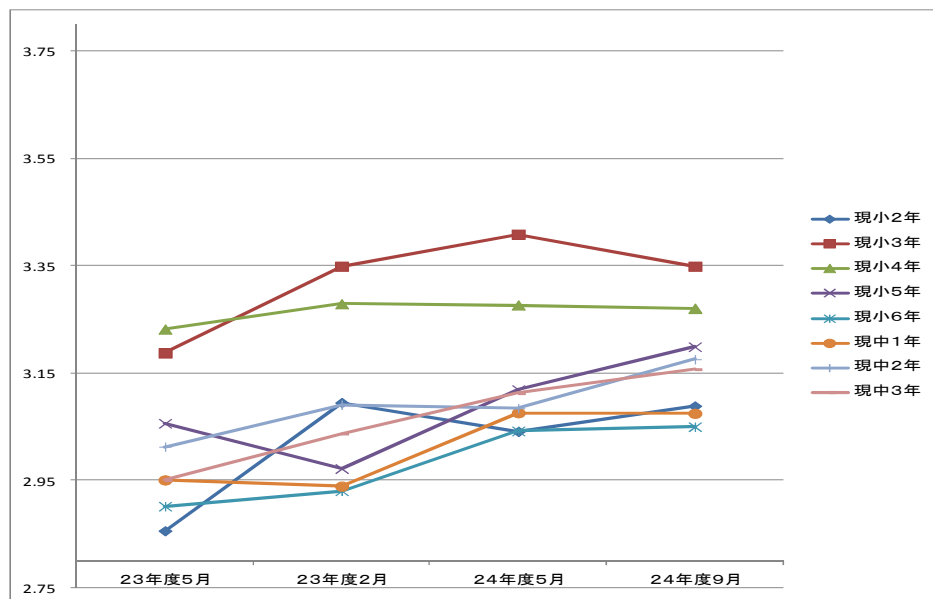
人権意識の状況が分かるチェックシートの良い状況を示す数値が，全項目でアップした。(平成23年度末調査)

○「自尊感情測定値」の数値向上

東京都教職員研修センターが配信している「自尊感情測定シート」による検査で，当初小学校1学年から中学校3学年まで全ての学年で東京都の平均値を下回っていたが，ほとんどの学年で上昇することができた。特に中学校

では、全学年東京都の平均値を超えることができた。

＜過去4回の自尊感情測定の経年変化＞



(2) 取組が効果を上げた実際の事例

- 校内の雰囲気明るくなり、生徒が自分の居場所をもてるようになってきた。それとともに不登校者数が減少した。
- 教員の人権問題に対するスキルアップが得られたのみならず、承認の方法や授業改善などの面でも向上することができた。

5. 実践事例についての評価

(1) 取組についての評価、及びそう評価する理由

- コミュニケーション能力を育成し自尊感情を伸ばすことができた。生徒が明るく活発になり、行動に自信をもつようになってきたからである。人権上の問題が起きにくい学校環境になってきていると思われる。
- 生徒の人権感覚を育むことができた。全校生徒による人権作文の内容や、「親子人権教室」の感想をみると、誠実かつ真剣に考えていることが分かったからである。

(2) 保護者や地域住民からの反応

来校するたくさんの方々から「学校が明るくなった」「生徒が活発になった」との言葉をいただいた。また、地域の方々からは「子どもたちの様子が明るくなった」「以前よりあいさつをきちんとするようになった」と言われるようになった。「親子人権教室」のような啓発活動には「人権についてあらためて考えさせられた」という感想をいただいた。人権教育に理解が得られていると思われる。

(3) 課題

- 小学校との連携は、意義があるものだと考えるが、発達の段階が異なるため十分な配慮と検討が必要である。
- 保護者への啓発は、生徒の人権感覚を育む上で重要である。今後とも工夫しながら、継続していきたい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

那須町立高久中学校

「学び合い」の中で行われる話合いや自分の考えを述べるなどの活動によりコミュニケーション能力を育成するとともに、自尊感情を伸ばすための工夫を日常的に行って人権感覚を育んでいる事例である。

あらゆる教育活動にコミュニケーションを重視した活動を明確に位置付けていること、さらに、教員が生徒に承認と感謝の気持ちを伝える「3よう伝気」（感謝しよう、承認しよう、ほめよう）の実践などにより自尊感情を伸ばしているところに特徴がある。

生徒が自らの行動に自信をもって明るく活発になり、人権上の問題が起きにくい学校環境となったことはその成果の現れである。

同一敷地内にある小学校との共同研究で、発達段階を踏まえた体系的な人権教育の指導内容・方法の充実に取り組んでいるところも注目される。